原子力産業新聞

2012年10月4日
平成24年（第2641号）
毎週木曜日発行
購読料1年分前金（消費税、国内送料込）
会　員　9,500円（1部220円）
非会員　15,000円（1部350円）
（当会会員は年会費13万円に本紙購読料の9,500円を含む。1口1部）

発行所　日本原子力産業協会　〒105-8605　東京都港区虎ノ門1丁目2番8号　虎ノ門琴平タワー9階　郵便振替00150-5895
電話03(6812)7103　FAX03(6812)7110　ホームページ　http://www.jaif.or.jp/　メールアドレス　shinbun@jaif.or.jp

昭和31年3月12日第三種郵便物認可

原子力行政は前原戦略相が担当

野田第３次改造内閣が発足

環境相・原発事故担当に長浜氏
枝野経産相は留任

野田佳彦首相の民主党代表再任を受け、一日、内閣改造が行われ、前内閣から十人の閣僚が交替し、新たな野田第三次改造内閣が発足した。新内閣発足に際し、野田首相は記者会見で、財政・社会保障関連の政策課題への取組みとともに、引き続き、震災復興、原発事故対応、日本経済の再生を「最重要課題」ととらえ、全力を尽くしていく決意を述べた。

初閣議では、福島の復興・再生への全力傾注、「革新的エネルギー・環境戦略」の遂行、日米同盟を基軸とした外交深化などを掲げる基本方針が確認された。

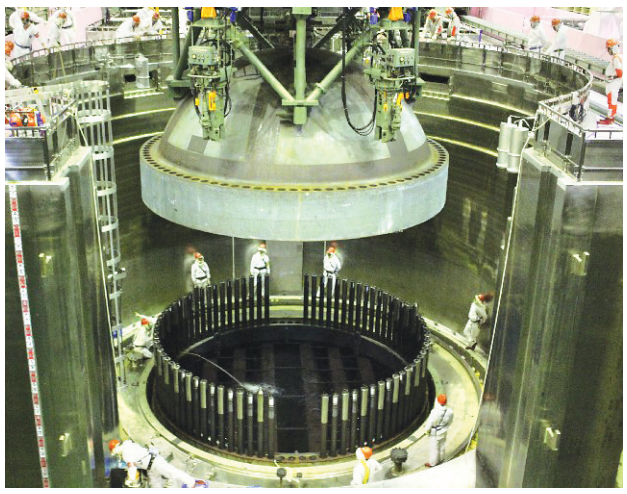
新閣僚陣の顔ぶれは、本紙関連で文部科学相に田中眞紀子氏、環境相（原発事故収束・再発防止、原子力防災担当）に長浜博行官房副長官、国家戦略担当相（科学技術政策、原子力行政他担当）に前原誠司民主党政調会長が就任、枝野幸男経済産業相は留任した。

田中文科相は初登庁後の記者会見で、科学技術振興、人作りに取り組む意欲を改めて示し、特に、エネルギー開発については「人類の課題」として、その重要性を強調した。今般の革新戦略が掲げる「原発稼働ゼロ」に関しては、ドイツの例もあげ、「簡単にできるものではない」として、具体化には、代替エネなど、研究開発を進める必要があることを述べた。また、「もんじゅ」については、旧科技庁長官時の現地視察の経験にも触れ、「このままずぐ止めてしまうのではなく、研究開発に活用していくのが望ましいと思う」としている。

長浜環境相は、福島原子力災害対応に関して、安全維持に万全を期した廃炉対策、事故の再発防止、廃棄物処理や除染対策を、また、一三年以降の地球温暖化対策への取組みを図ることなど、首相より指示を受けたと述べ、今後、「現地に足を運び声を聴く」として、現場主義の姿勢を示すなどした。

前原国家戦略相は、「革新的エネルギー・環境戦略」を踏まえ、関係自治体や国際社会と責任ある議論を進め、国民の理解を得ながら、グリーン政策大綱策定へとつなげることなど、首相より指示を受けたとし、中長期の国家戦略推進に向け、「いかに国力を上げるか」と抱負を述べた。また、革新戦略に示された原子力委員会の抜本的見直しについては、専門家の意見も踏まえ、廃止も含めた在り方に関する検討を行い、「予断を持たず現実的な対応を図る」などとしている。

また、留任となった枝野経産相は、二日の閣議後会見で、革新戦略を踏まえたエネルギー政策の再設計を図るとし、その大きな骨組として、電力システム改革の制度設計に早急に取り組むなどと抱負を述べた。



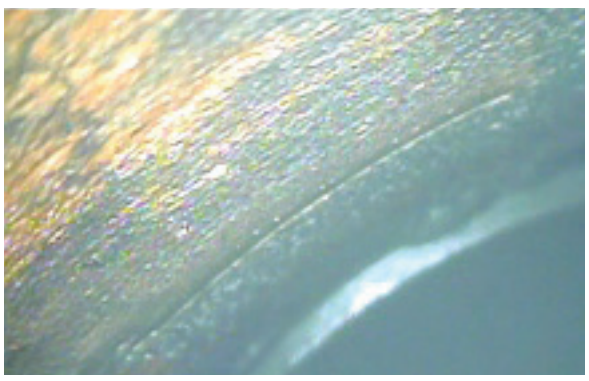
福島第二4号機の原子炉圧力容器上蓋の取り外し作業（9月14日＝東京電力撮影）

格納容器内の写真を発表

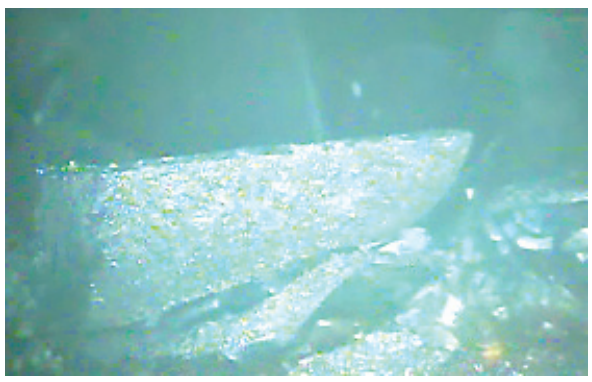
東電　福島第一１号機、事故後初めて

東京電力は九月二十七日、福島第一原子力発電所1号機の原子炉格納容器内の映像を事故後初めて公開した。

フラスコ型格納容器の内側の底のコンクリート面から約八・五mの位置にある配管貫通部の閉止板に穴開け加工し、内視鏡を入れて下方を動画で撮影した。内部は水で満たされているが、少し白っぽく濁っている。



格納容器の内壁が一部茶色に変色



内部の作業棚に散乱している堆積物

今後、十月中旬までにCCDカメラによる内部調査、線量測定、滞留水のサンプリング、常設監視計器の取り付けなどを行う計画だ。

福島第二の復旧状況も公開

東京電力

東京電力は二日、福島第二原子力発電所の復旧計画の進捗状況をまとめて、発表した。

号機別の復旧状況は九月末時点で、1号機が五〇%、2号機が五三%、3号機が九二%、4号機が百%（五月十七日に完了）となっている。1～3号機も今年度末までには完了予定だ。

復旧が完了している4号機では、点検のため九月から原子炉開放作業を開始し、炉内の蒸気乾燥機、気水分離器などの取り外しを順次行い、二十一日には終了。十月一日からは、原子炉内にある燃料を使用済み燃料プールに移送を開始した。

この一週間の出来事

〈９月27日（木）～３日（水）〉
・北陸電力、志賀原発防潮堤完成と発表（1日）
・北村社長が大間町などに工事再開を説明（1日）
・米倉経団連会長らが浜岡原発を視察（3日）

原産新聞の紙面から

◇国内ニュース
・大間原子力発電所の建設工事再開決定（2面）
・原子力委が新大綱策定会議の廃止を決定（2面）
・首相が国連総会で原子力安全発信を表明（2面）
・９月の原子力発電設備利用率5.2%（4面）

◇海外ニュース
・ＧＥ日立のレーザー濃縮工場に建設許可（3面）
・バルト３国首相がビサギナス計画で合意（3面）
・ロシアのカリーニン４が営業運転開始（3面）

当社は1977年以来、エネルギー問題、特に原子力発電の必要性を訴える広報・広聴、調査研究活動をつづけてきました。その一環としてENERGY for the FUTURE誌を季刊にて発行し、今号（９月30日発行）で通巻１４４号です。

東京電力（株）福島第一原子力発電所事故以降、原子力をめぐる議論が白熱していますが、本誌は一貫して現場からの声と専門家の責任ある記事を掲載しています。

ご購読のお申し込みは下記までお願いいたします。

〒100-0011
東京都千代田区内幸町2-2-1
日本プレスセンタービル
ナショナルピーアール株式会社
電話 03-3580-7411
FAX 03-3593-0075

表紙の画は、池波正太郎氏によるものです

創刊1980年 **ENERGY for the FUTURE** 定価1,000円(税込)
～世界は原子力利用を真剣に考えています～

【巻頭対談】

これでいいのか日本 ～エネルギー・食糧・水問題を考える～
舛添要一（新党改革代表・参議院議員）
渡辺好明（（社）全国農地保有合理化協会会長・元農水事務次官）

【原子力のいま～立地地域の声を聞く】

必ず帰還して、町を再建する　渡辺利綱（福島県大熊町長）

福島第二の地元から、復興に向けて思うこと　遠藤勝也（福島県富岡町長）

志賀町の活断層論争と再稼働問題　山本辰榮（志賀町議会原子力発電所対策特別委員長）

冬を前に泊原発の再稼働を考える　結城　智（泊村議会原子力対策特別委員長）

【原子力と技術－安全を守り、確認する】

想定外を許さないための安全審査　中川英之（福井県原子力安全専門委員長）

再発防止に向けて学ぶべきこと　畑村洋太郎（政府事故調査委員会委員長）

最終処分技術を信頼して欲しい　梅木博之（日本原子力研究開発機構）

地震・津波に対する原子力防災と原子力リスクコミュニケーションの取り組み　蛯沢勝三（原子力安全基盤機構理事）